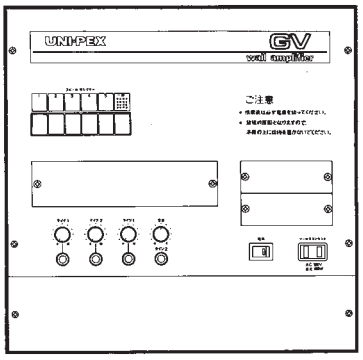
UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)

ウォールアンプ

GV-120　GV-60

このたびは、ウォールアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
この取扱説明書はお読みになりましたら大切に保管し、後日わからないことがあれば再びご覧ください。



目次

設置・使用上のご注意 …… 1
設置のしかた …… 2〜3
各部の名称と説明 …… 4
配電盤パネル内各部の名称と説明 …… 4
各種入線のしかた …… 5〜6
スピーカの接続 …… 7〜8
その他の各種接続のしかた …… 9
ノイズ対策について …… 9
ワイヤレスチューナユニットSU-3000シリーズの取付方法 …… 10
オプションユニットの取付方法 …… 10
点検方法 …… 11
外観図 …… 11
定格 …… 12

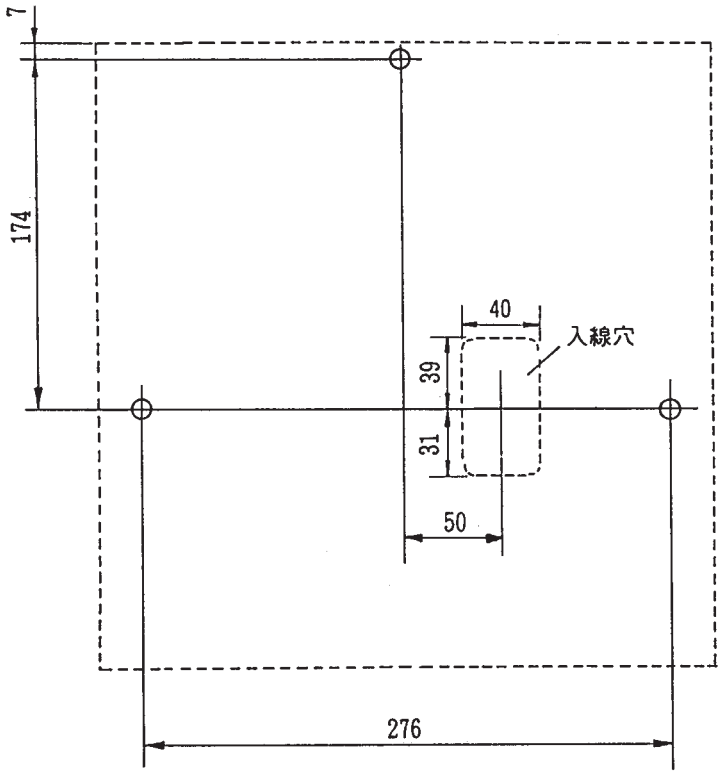
設置・使用上のご注意

- 設置・接続にあたり端子カバーをはずすときは、必ず電源を切ってから行なってください。
- 落雷、感電事故、雑音障害などを防ぐためにアース端子は必ず接地してください。
- 本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。
  （高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、デジタル機器、静電式空気清浄器等。）
- 湿気の多い所や温度の高い場所、各種の送受信機のそばの設置は避け、通風の良い場所に設置してください。
- マイクコードとスピーカ回線は同一配管で布線しないでください。
- 本機の改造はしないでください。

□ 別売のオプションユニットは次のものがあります。
300MHzワイヤレスチューナユニット SU-3000A
ラジオチューナユニット FU-110R

□ 柱上用ユニットとしてご使用の場合は、屋外設置用防水収納盤を別途ご用意ください。

設置のしかた



（単位 mm）

取付寸法図は本機の正面より見た図にしております。

○この寸法図を参照して壁に取付位置を決めてください。

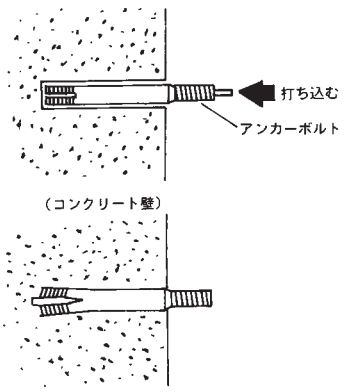
（パネルとパワーアンプ部をはずして取付けてください。
要領はP5～6の各種入線のしかたをご覧ください。）

○壁面に取付ける場合は、取付用穴にアンカーボルトを打込みます。
アンカーボルトを使用できないところは木ねじを使用してください。

●荷重10kgに耐えられる壁に取付けてください。
●本機の入線穴の位置も考慮して取付場所を決めてください。

□ 壁面に設置の場合

コンクリート壁に取付ける場合

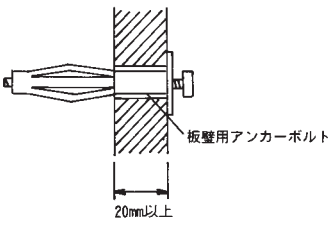


電気ドリル等でコンクリート壁に穴をあけ、アンカーボルトを打込みます。

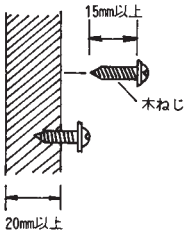
板壁などに取付ける場合

●木造やボード製の間仕切り程度に使用されている壁などの取付けは避けてください。
●しっかりした柱や板厚が20㎜以上の板壁を使用してください。

板壁用アンカーボルト使用



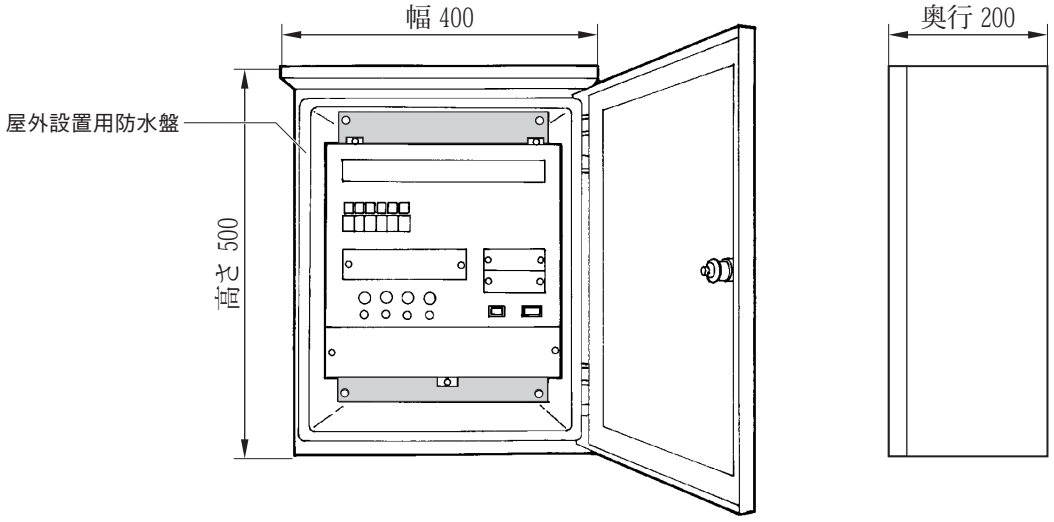
木ねじを使用



□ 柱上に設置の場合（設置例）

① 屋外設置用防水収納盤を別途ご用意ください。
推奨の盤サイズは、高さ500mm、幅400mm、奥行き200mm（屋根部分は除く）です。

■推奨の盤サイズ（単位 mm）
※図は本機を取付けた状態

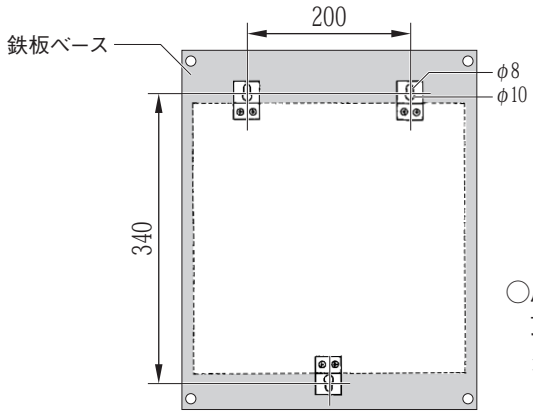


② 収納盤内部の鉄板ベースをはずしてください。

③ 収納盤裏側に、コンクリート柱用金具又はポール用金具を取付けます。

④ 鉄板ベースに本機を取付けてください。（下の取付寸法図に合わせて取付けます。）

■取付寸法図（単位 mm）
取付寸法図は、本機の正面より見た図にしております。



○屋外設置用防水収納盤の鉄板ベースに取付ける場合は、できるだけ上部に空間ができるように、下方よりに取り付けてください。

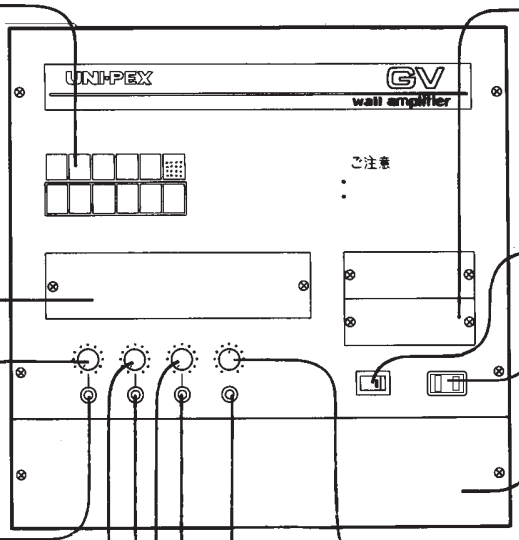
⑤ 収納盤に入線穴を開けてください。

⑥ 本機を取付けた鉄板ベースを元どおり収納盤に取付けてください。

⑦ 収納盤をコンクリート柱用金具又はポール用金具で柱に固定設置してください。

⑧ 本機配電盤に入線、結線してください。（各種入線のしかたをご覧ください）

各部の名称と説明



スピーカ回線選択スイッチ

各系統別に放送したいときは１～５のスイッチを押してください。
押した系統に放送されます。
全系統に放送したいときは右側の一斉スイッチを押してください。全スピーカより放送されます。

オプションユニット組込部

必要に応じて別売のユニットを組み込むことも出来ます。

マイク１音量調節つまみ

マイク１入力ジャック
（－62dBV 600Ω 電子平衡）

マイク２音量調節つまみ

マイク２入力ジャック
（－62dBV 600Ω 電子平衡）

ライン１音量調節つまみ

ライン１入力ジャック
（－22dBV 10kΩ 不平衡）
外部演奏機器等を接続します。

オプション ワイヤレスチューナユニット組込部

300MHzワイヤレスチューナユニットSU-3000Aを組込みます。
（２台組込可能）

電源スイッチ

ＡＣサービスコンセント（非連動）

100Wまでの機器を接続してください。

配電盤パネル

配電盤パネル内の各部の説明と名称をご覧ください。

音質調節つまみ

右まわりで高音が強調され、左まわりで低音が強調されます。

ライン２入力ジャック
（0dBV 600Ω 不平衡）
ミキサープリアンプ等を接続します。

配電盤パネル内各部の名称と説明

ライン３入力ジャック用半固定ボリューム
接続された機器の音量を調節します。

入線穴用ゴムキャップ
スピーカ線等を入線するときは中央を十文字に破ってください。

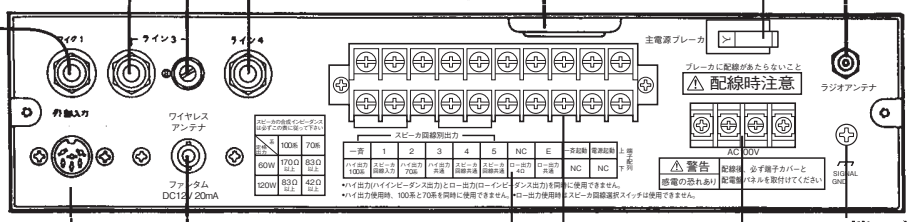
ラジオアンテナ端子
別売のラジオチューナユニットを組込み使用されるときはアンテナを接続してください。

ライン３入力ジャック
（－22dBV 10kΩ 不平衡）
CDやページング等を接続します。

ライン４入力ジャック
（－22dBV 10kΩ 不平衡）
有線放送アンプ等、音量調節器のある機器を接続してください。

ブレーカ
（主電源）

マイク１入力ジャック
（－62dBV 600Ω 電子平衡）
前面パネルのマイク１入力ジャックが優先します。



外部接続コネクター
（－22dBV 10kΩ 不平衡）
録再デッキ等を接続します。

ワイヤレスアンテナ接栓
（BNCコネクター）
ワイヤレスチューナユニットSU-3000Aを組込み使用されるときは、300MHzワイヤレスアンテナAA-300を接続してください。

各入力端子表示

各入出接続端子
各入出力の接続のしかたをご覧ください。

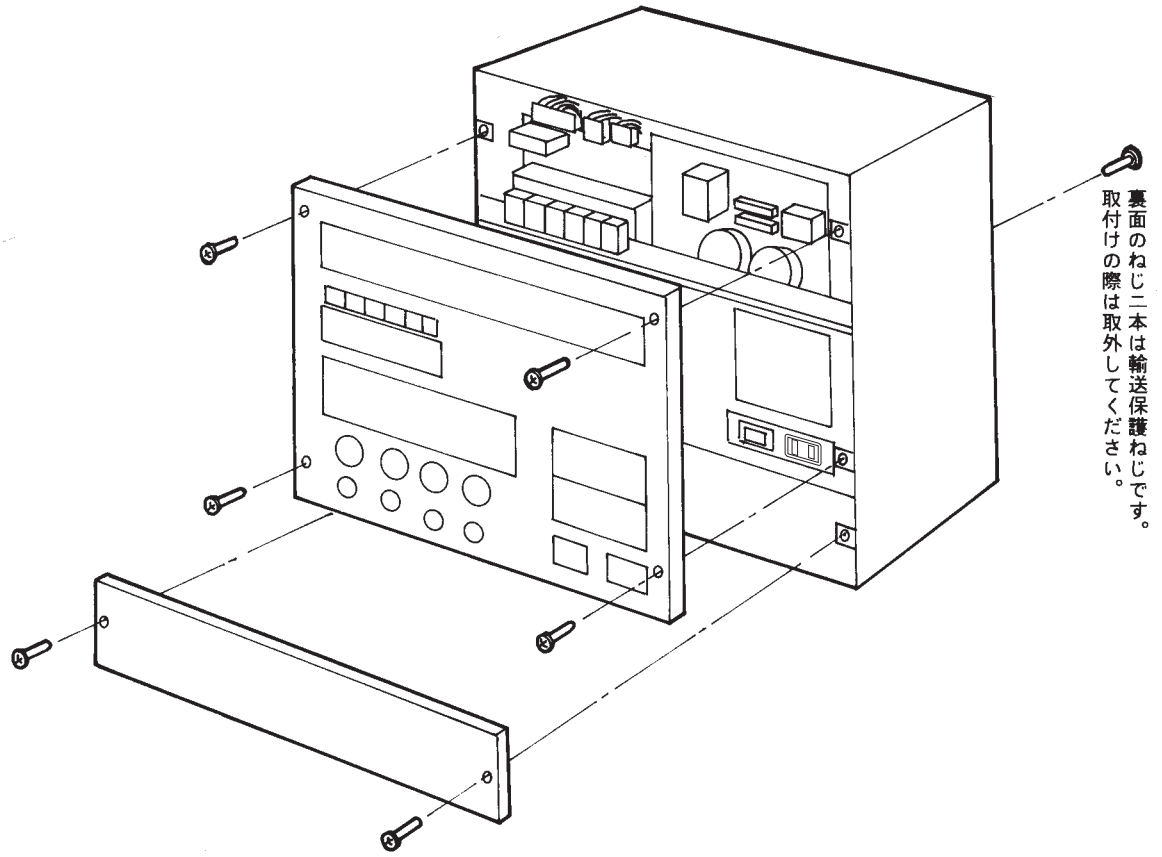
アース端子（雑音低減用）
この端子は他の音響機器を接続した場合等の雑音の低減をはかるためのものです。
安全アースではありません。

AC100V電源入力端子
結線後は必ずカバーを取り付けてご使用ください。

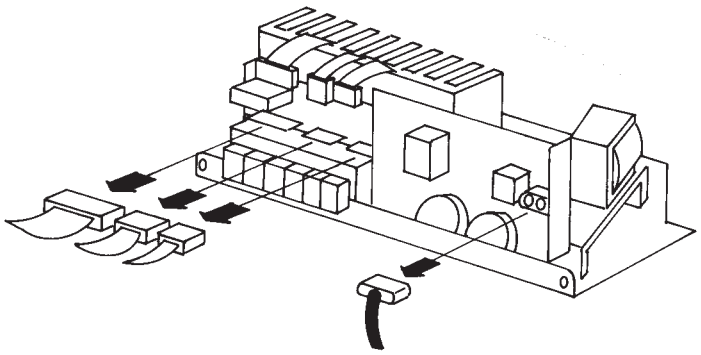
各種入線のしかた

■ 背面から入線の場合

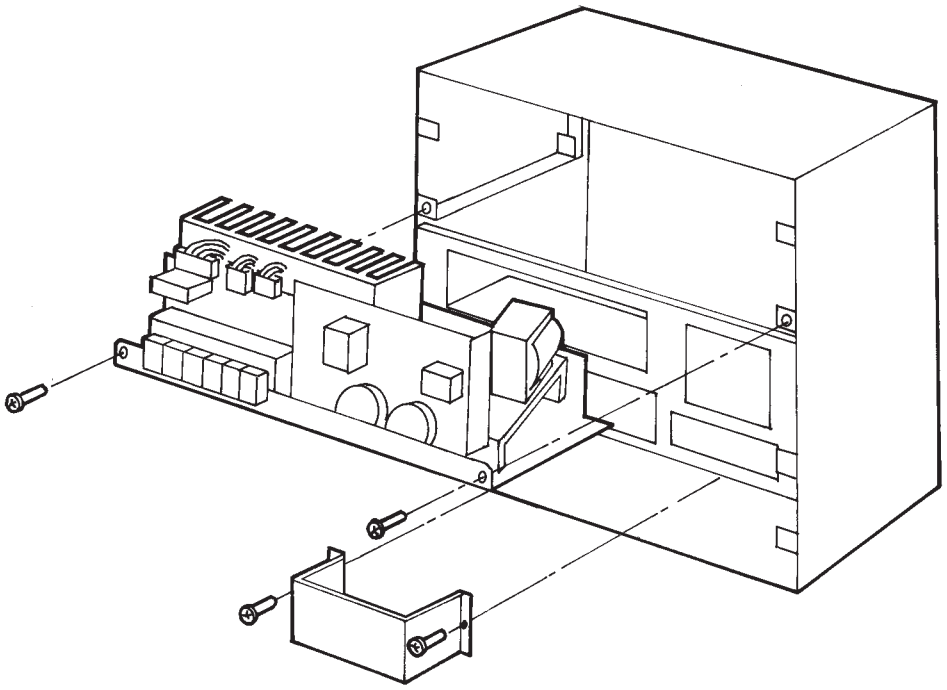
① 本機裏面にある２本のねじを取りはずしてください。
② 図のように前面パネル及び配電盤パネルをはずしてください。

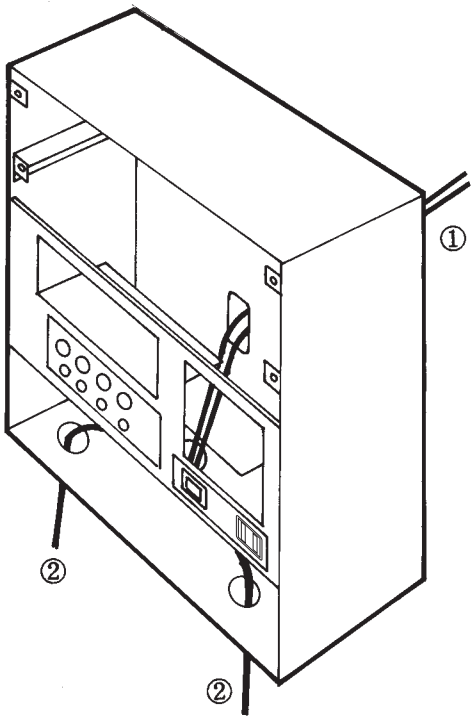


③ パワーアンプ部のスピーカ回線選択スイッチ上部にある12P、7P 5Pコネクターとパワーアンプ部右側にある2Pコネクター(電源供給)をはずしてください。
すべての入線、結線が終れば再び元どおりに接続します。



④ 図のようにねじをはずし、パワーアンプ部をはずしてください。
端子カバーもはずします。
すべての入線、配線、結線が終れば元どおりに格納してください。
特に端子カバーを忘れずに取付けてください。





入線穴が背面と底面にありますので、設置場所、使用機器に合わせて適切な入線穴より入線してください。

① 背面より入線の場合

○ 図の①のように入線し、接続端子の上部にあるゴムキャップの中央部を十文字に切って入線してください。

② 底面より入線の場合

○ 本体底面にある２か所のノックアウトパンチ穴より入線してください。 (図の②)
ノックアウトパンチ穴は、ハンマー等で軽くたたいて開穴し、付属のゴムキャップの中央部を十文字に切って取付けて使用してください。
電源及びスピーカ出力は、右の穴より、マイク、ライン等の入力は、左の穴より入線してください。

■ 上記の図はパネルをはずした図になっていますが、底面から入線の場合は、パネルをはずす必要はありません。

スピーカの接続

ローインピーダンススピーカの接続

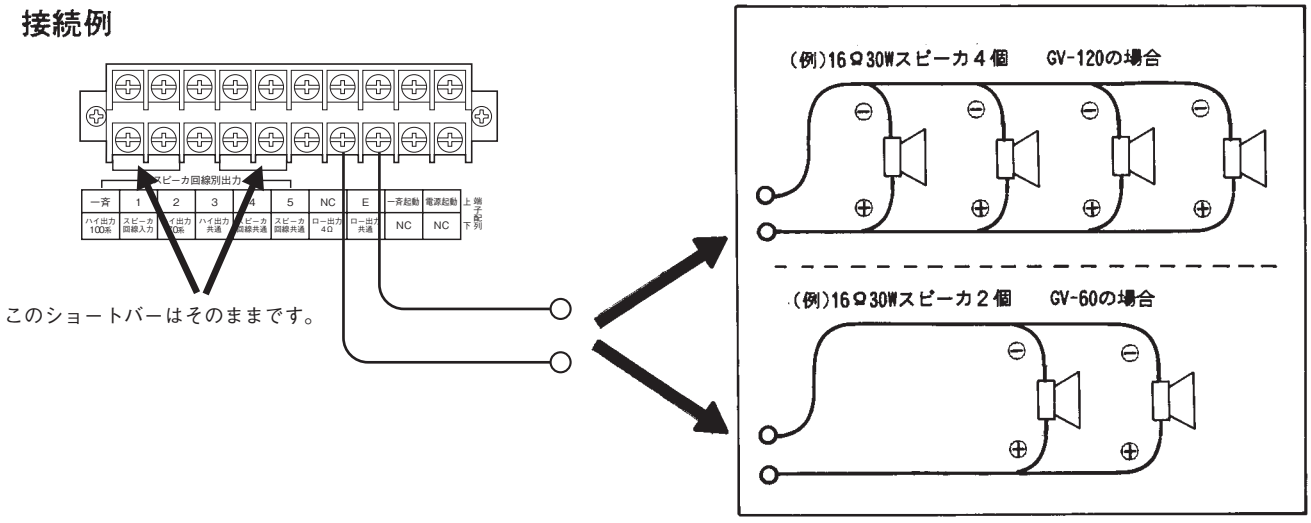
●接続できるスピーカは下表のとおりです。

アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
GV-120(120W)	4Ω～16Ω	120W以上
GV-60(60W)		60W以上

特に！ ご注意を……

- ●ローインピーダンススピーカとハイインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。
- ●多数のスピーカを接続するときは、全スピーカの合成インピーダンスが４Ω以下にならないようにしてください。
- ●使用するスピーカの定格入力は、スピーカ１個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。
- ●ローインピーダンススピーカを接続したときは一斉放送になります。（スピーカセレクタースイッチは使用できません。）

接続例



ハイインピーダンススピーカの接続

●接続できるスピーカは下表のとおりです。

GV-120

出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
100V ライン（ハイインピーダンス100系）	83Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が120W以内
70V ライン（ハイインピーダンス70系）	42Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が240W以内 ※1

※1 70V 端子にハイインピーダンスのスピーカを接続すると、スピーカに加わる電力は表示電力の半分になります。(例. 1kΩ 10W→5Wへ)

GV-60

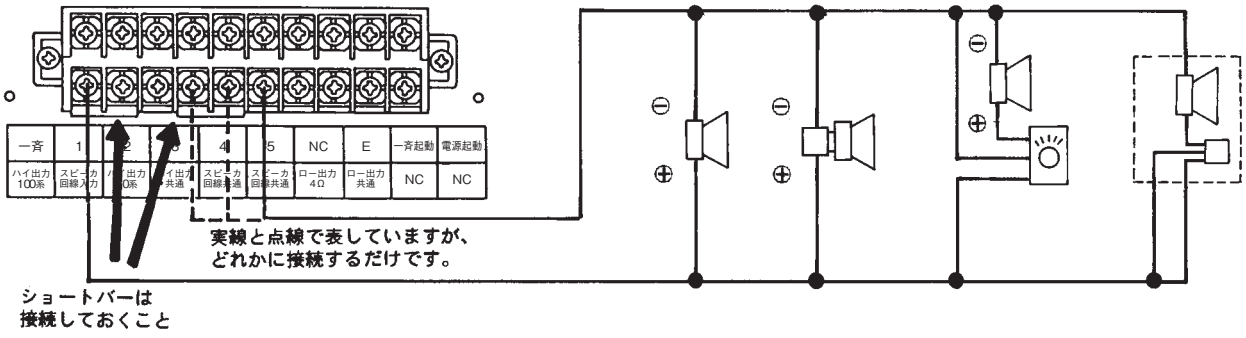
出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカの必要容量
100V ライン（ハイインピーダンス100系）	170Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が60W以内
70V ライン（ハイインピーダンス70系）	83Ω以上	スピーカ(トランス付)の合計容量が120W以内 ※2

※2 70V 端子にハイインピーダンスのスピーカを接続すると、スピーカに加わる電力は表示電力の半分になります。(例. 2kΩ 5W→2.5Wへ)

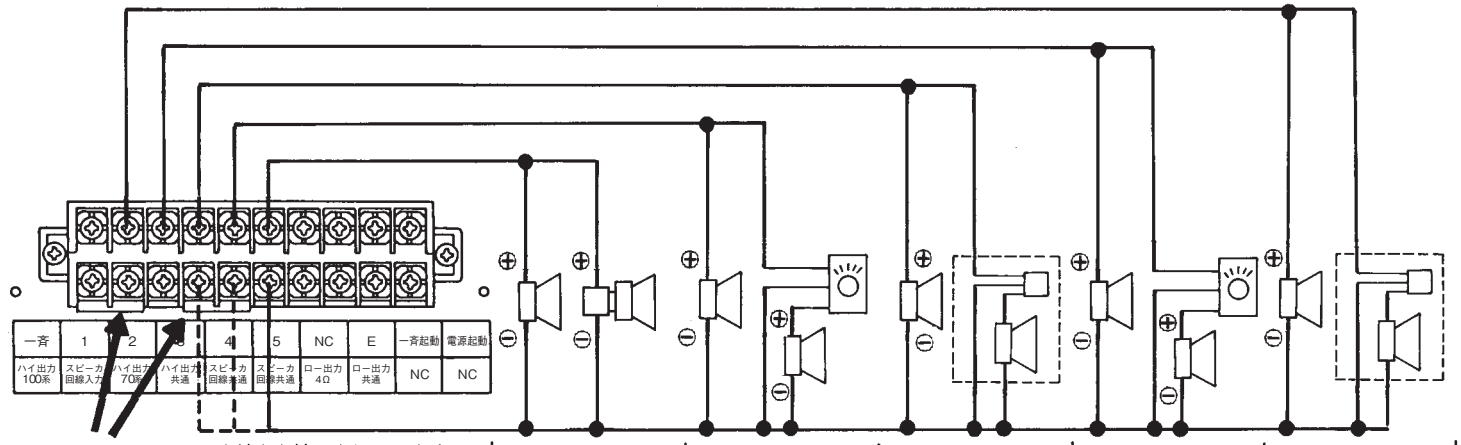
特に！ ご注意を……

- ●スピーカの合成インピーダンスがアンプの適合負荷インピーダンスより小さくならないようにしてください。
- ●スピーカの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
- ●ハイインピーダンススピーカとローインピーダンススピーカを同時に使用することはできません。

① 1系統で放送する場合 （スピーカセレクタースイッチを使用しない場合）

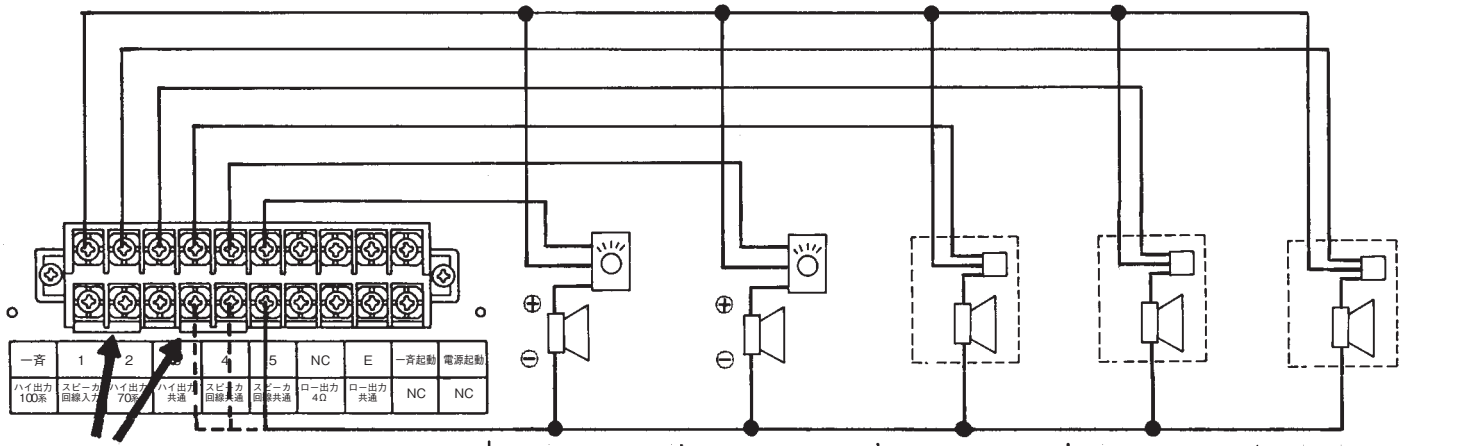


② 系統別に放送する場合 （2線式の場合）



アッテネータの音量を0位置にした場合は、そのスピーカからの放送はできません。

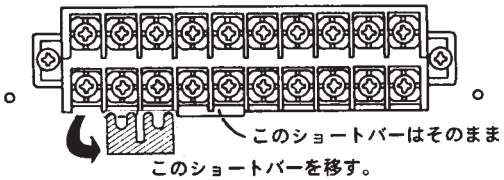
③ 系統別に放送する場合 （3線式の場合）



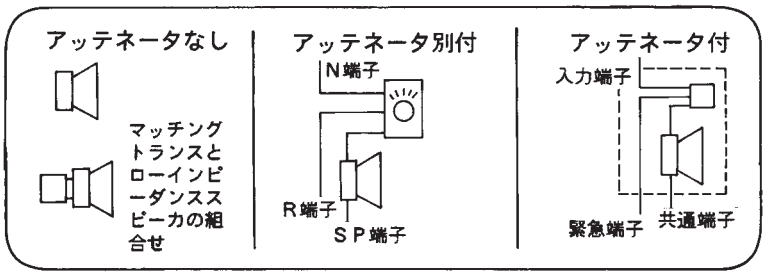
○各セレクタースイッチを押して放送される場合は、アッテネータの音量が0位置の場合はそのスピーカからの放送はできません。

○一斉スイッチを押せば、アッテネータの音量が0位置であっても放送できます。

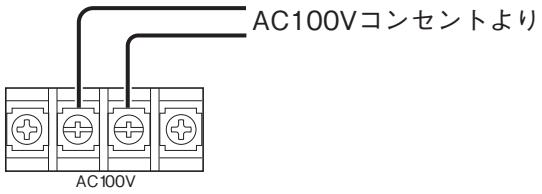
70系出力の場合



出力100系－スピーカ回線入力間のショートバーを
スピーカ回線入力－出力70系間に移し替えてください。



その他の各種接続のしかた

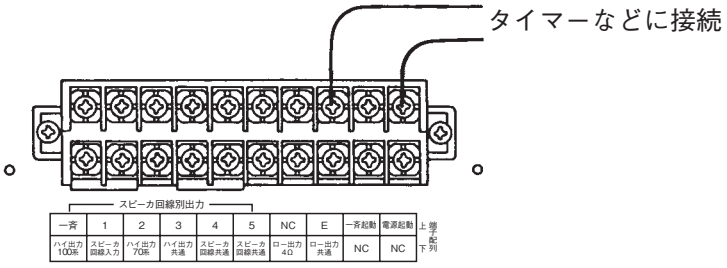


○　ＡＣ電源の供給

スピーカ線、その他のすべての接続が終りましたらこのＡＣ１００Ｖ供給線を接続してください。

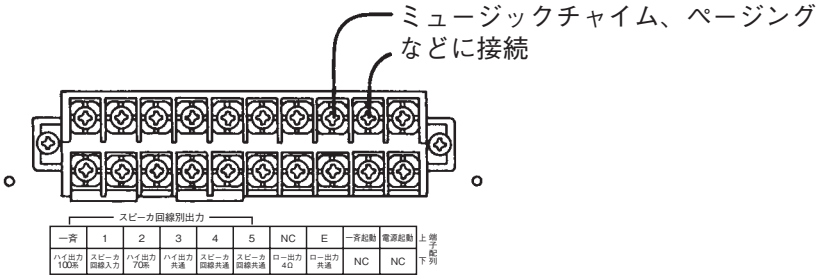
○　電源起動の接続

この線をメークすれば本機の電源スイッチに関係なく電源が入ります。

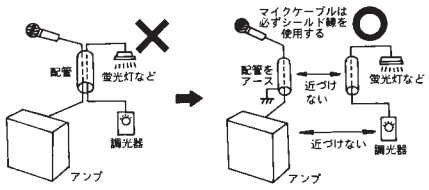


○　一斉起動の接続

ミュージックチャイム、ページング等、一斉に放送ができます。

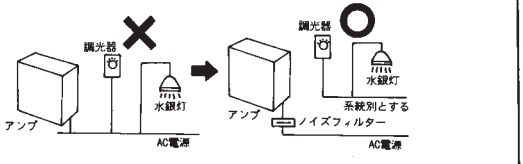


ノイズ対策について　外来ノイズの影響をうけないために配線については次のような点に注意してください。



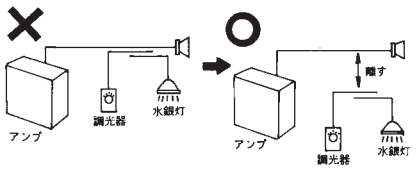
■マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、ＡＣ電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



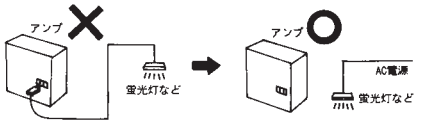
■スピーカ線のノイズ対策

スピーカ線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



■電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのＡＣ１００Ｖ電源線にノイズフィルターを入れてください。



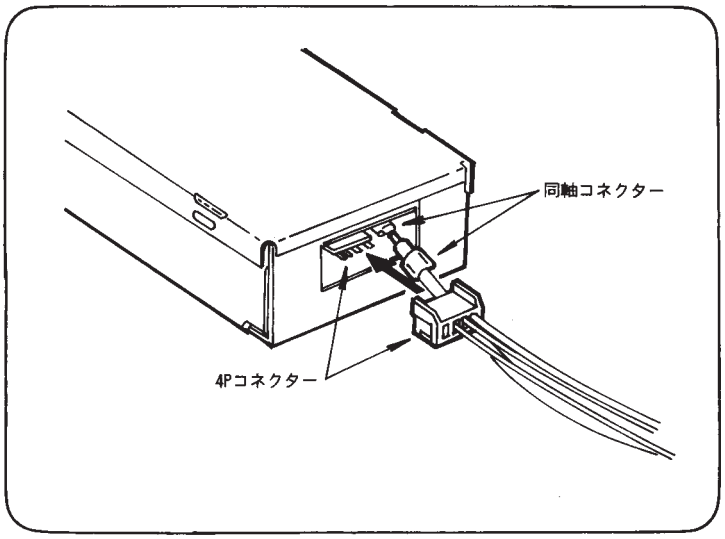
■サービスコンセントの使いかた

サービスコンセントには、蛍光灯など音響機器以外の機器を接続しないでください。
（容量ＡＣ１００Ｖ、１００Ｗ以内）

●ユニットパネルを開ける前に必ず、配電盤の電源(ブレーカ)を断にしてください。

ワイヤレスチューナユニットSU-3000Aの取付方法

①ワイヤレスチューナユニットの組込部のブランクパネルをはずしてください。
②本機内部の４Ｐコネクターと同軸コネクターを取りだしてください。
③右図のようにSU-3000Aに４Ｐコネクターと同軸コネクターをしっかりと接続してください。
④チューナユニット組込部に装着し、ブランクパネルを取付けてあった２本のねじで固定してください。

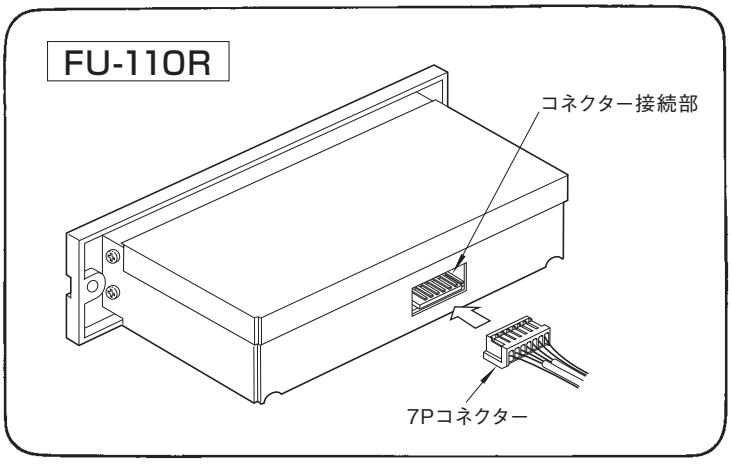


ご注意
本機には２台のワイヤレスチューナユニットが組込可能ですが、同一周波数のものは使用できません。
(ワイヤレスチューナユニットの操作については、SU-3000Aの取扱説明書をご覧ください)

●ワイヤレスアンテナについては、AA-300の取扱説明書に従って、ワイヤレスアンテナ接栓に接続してください。

オプションユニットの取付方法

①組込部のブランクパネルをはずしてください。
②本機内部に７Ｐコネクターがありますので取りだしてください。
③右図のように７Ｐコネクターをしっかりと接続してください。
④組込部に装着し、ブランクパネルを取付けてあった２本のねじで固定してください。



(オプションユニットの操作については、オプションユニットに付属の取扱説明書をご覧ください)

特にご注意を ----------

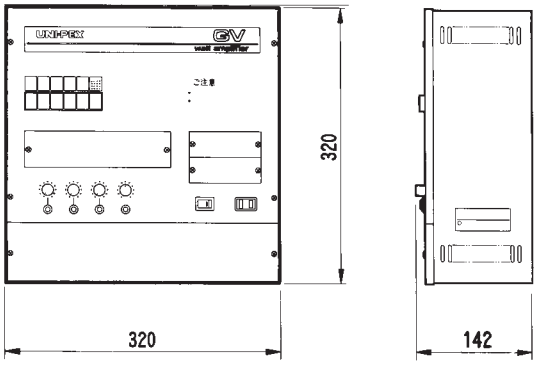
ユニットを装着されるときに、各コネクターコードを本機にはさみ込まないように注意してください。

点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな？と思うことがあります。
次の要領で点検してみてください。

症　　状	点 検 項 目	対　　策
全く動作しない	電源が入っていますか。	電源が供給されているか確認してください。
	電源表示灯が点灯していますか。	ブレーカが入りになっていることを確認してください。
マイクの音声がでてこない	マイクは確実に差込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイクの音量調節つまみの位置が0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
スピーカより音がでない	スピーカ接続端子に正しくスピーカ線が接続されていますか。	スピーカの接続をご覧になって確認してください。
	スピーカ線がショートしていませんか	確認してください。
	スピーカ回線選択スイッチが押されていますか。	スピーカ回線選択スイッチを押してください。
音がわれる	スピーカ線の接続は正常ですか。	スピーカの接続をご覧になって確認してください。
雑音がでる	アースは完全ですか。	必ずアースを接地してください。 ガス管や水道管には接続しないでください。
	スピーカ線やマイクコードなどは他の線ト同時に布線していませんか。	ノイズ対策をご覧になってください。
外部接続機器の音が出ないまたは小さい	接続機器及び本機の入力音量調節つまみは0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	各部の名称と説明をご覧ください。

外観図



（単位 mm）

定格

	GV－120	GV－60
使用電源	AC 100V 50/60Hz	
定格消費電力	100W（電気用品安全法による測定方法に基づく）	50W（電気用品安全法による測定方法に基づく）
消費電流	AC 3.4A	AC 1.8A
出力	定格 120W	定格 60W
出力負荷インピーダンス	83Ω（ハイインピーダンス100系） 42Ω（ハイインピーダンス70系）	170Ω（ハイインピーダンス100系） 83Ω（ハイインピーダンス70系）
	4Ω（4～16Ωスピーカ使用可能）不平衡	
ひずみ率	0.5%（1kHz 定格出力時）	
周波数特性	80Hz～10kHz 偏差3dB（定格出力 －10dB時）	
音質調節	10kHzにおいて －10dB（1kHz基準）調節器付	
入力感度及びインピーダンス	マイク１：約－62dBV 600Ω 電子平衡 音量調節器付 マイク２：約－62dBV 600Ω 電子平衡 音量調節器付 ライン１：約－22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ライン２：約 0dBV 600Ω 不平衡 ライン３：約－22dBV 10kΩ 不平衡 音量調節器付(半固定) ライン４：約－22dBV 10kΩ 不平衡 外 部：約－22dBV 10kΩ 不平衡	
録音出力	－2dBV 10kΩ	
信号対雑音比	65dB	
スピーカ出力回線	5回線一斉付 入力容量 125V 0.5A以下（１回線当たり）	
動作表示	電源表示灯：赤	
使用温度範囲	－10℃ ～ ＋50℃	
付帯機能	電源起動：無電圧メーク接点制御方式により本機の電源制御が可能 一斉起動：無電圧メーク接点制御方式により本機の電源制御及び一斉制御が可能	
外装	パネル（鋼板）マンセル 5Y7/1 近似色 ベージュ 塗装仕上げ ケース（鋼板）マンセル 5Y7/1 近似色 ベージュ 塗装仕上げ	
寸法	幅 320mm 高さ 320mm 奥行 142mm	
重量	約 8.2kg	約 7.2kg
付属品	2極大形単頭プラグ 1、ショートバー 2、ゴムキャップ 2、取扱説明書（保証書付）1	
適合品	① 300MHzワイヤレスチューナユニット SU-3000A（２台まで組込可能） ② 300MHzワイヤレスマイク WM-3000 シリーズ（チューナ組込時） ③ 300MHzワイヤレスアンテナ AA-300（チューナ組込時） ④ ラジオチューナユニット	

メモ

メモ

メモ

サポートのご案内

■ **修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。**
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。
①品　名　②品　番　③お買い上げ日　④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

■ **販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。**

営業所情報はホームページ
もしくはQRコードにアクセス
してください。
http://www.unipex.co.jp

■ **その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。**

UNI-PEX お客様ご相談センター
0120-56-5245（通話料無料）
受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
PHS・携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。

ウォールアンプ GV-120 GV-60

保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 年　月　日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部) 6ヶ月
お客様	お名前　見本　様 ご住所〒 電話(　　)　-
販売店	店名・住所 印 電話(　　)　-

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社
〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3-6 TEL.(072)855-3334(代)

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
(This warranty is valid only in Japan)

無料修理保証の範囲
①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲
(次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。)
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。